

2022 年 1 月 29 日

2021 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科
課題研究

COVID-19 パンデミック初期に COVID-19 ケアに従事した救急領域看護師の困難と必要な支援策

Emergency Department Nurses' Difficulties in Caring for COVID- 19
Patients and Adequate Support of During the Early COVID-19
Outbreak Phase: A Qualitative Study

20mn026

落合 香保里

要 旨

【目的】本研究は、COVID-19 パンデミック発生初期に COVID-19 患者のケアを行った救急領域看護師が体験した困難と必要な支援策を明らかにすることを目的とした。

【方法】本研究は Web インタビュー法を用いた質的研究である。COVID-19 パンデミックが初期である 2020 年 1 月から 6 月に COVID-19 患者ケア経験がある救急領域看護師を対象に半構造化 Web インタビューを行った。リクルートはスノーボールサンプリング法を用いた。

基本的属性（年齢、性別、看護師経験年、所属部署）、COVID-19 のケアで体験した困難、感染への不安、人間関係の変化及び必要とする支援に関する質問を含むインタビューガイドを用いた 60 分程度の半構造化面接を行った。インタビュー内容は録音し、録音内容をもとに逐語録を作成した。逐語録を精読し、得られたデータを質的帰納的に分析した。

調査に当たっては、十分な倫理的配慮を行って実施した。

【結果】8 人の COVID-19 のケアの経験のある救急領域看護師に Web インタビューを行った。研究参加者の看護師経験は、2 年から 14 年で平均 6.1 年±3.7 であった。平均年齢は 29.6 歳±3.7 歳、性別は女性 7 人、男性 1 名であった。分析により、6 つの【大カテゴリー】と 20 の《カテゴリー》、および 57 のサブカテゴリーが抽出された。救急領域の看護師は、《押し寄せる患者》《マンパワー不足》《感染対策による負担増加》《緊張感の高い ECMO》により【限界を超えた疲労】状態にあった。《患者への曝露による自身への感染リスク》《感染を媒介してしまうかもしれない不安》など【感染への不安】を抱え、《COVID-19 患者を受け持ちたくない本音》《職場に迷惑をかけたくない》《使命感ではなく、やるしかないと思う》など【辞めたいけれど辞められない】複雑な感情を抱いていた。また、《治療の選択肢が限られる》《感染予防のためケアが割愛される》《曝露予防のためベットのサイドにいる時間が制限される》《急変や死に向かう孤独の中にいる患者》など【本来のケアができない葛藤】に苦しんでいた。さらに、COVID-19 のケアに従事することによる《私生活の行動制限による閉塞感》《家族にすまないという気持ち》《世間の COVID19 流行の認識に対する憤り》《差別への恐怖》《コミュニケーション不足が生じる問題》による【孤立感】を感じていた。困難にある看護師にとって【助けになった支援】は、《病院による感染予防対策》《同僚同士の助け合い》であった。

【結論】COVID-19 パンデミック初期にケアに従事した救急領域看護師は、限界を超えた疲労、感染不安、辞めたいのに辞められない現状、本来のケアができない葛藤、孤立感などを体験した。病院による感染予防対策や同僚との相互支援が看護師の助けになっていた。